

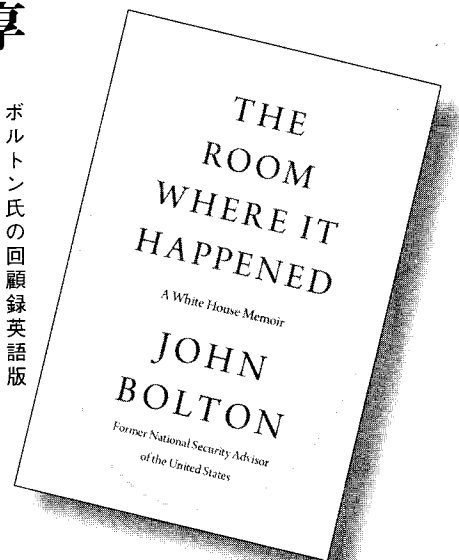
明かされた日本の安保と南北朝鮮問題

トランプ政権を揺るがす ジョン・ボルトン氏の回顧録

ジョン・ボルトン氏の回顧録『THE ROOM WHERE IT HAPPENED』(それが起こった部屋)で米国防務政権が揺らいでいる。その回顧録を読み解くと、「アメリカ・ファースト」の考えのもと、日本の安保と南北朝鮮問題にも言及されていた。

孫崎 享

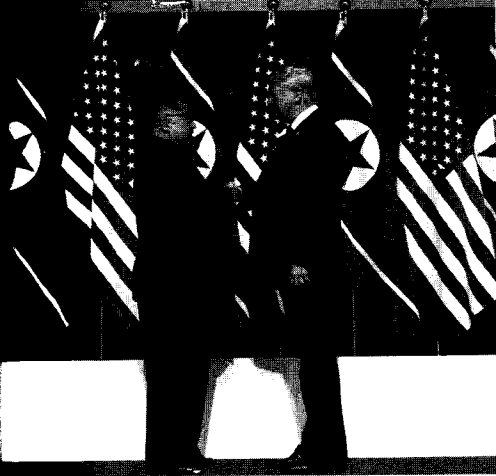
ボルトン氏の回顧録英語版
『THE ROOM WHERE IT HAPPENED』(それが起こった部屋)



過去退任した米国防務長官は「回顧録」をしばしば出版する。その目的の一つは、莫大な原稿料を得ることにある。

ただ、元国家安全保障問題担当大統領補佐官ボルトンの回顧録は、過去の回顧録のどれよりも米国防務に大きい影響を与える。本年11月米国防務長官の選出が最大焦点

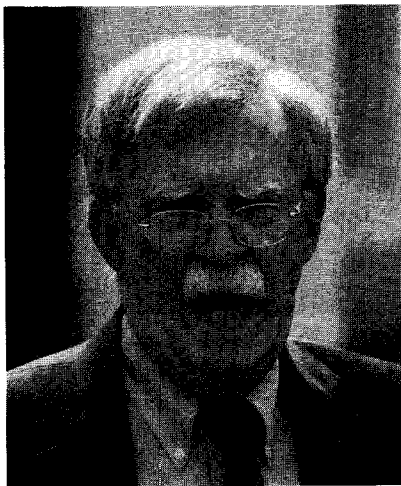
シンガポールで開かれた米朝首脳会談。(2018年6月12日、提供/AP・AFL)



はトランプに大統領職を任せられるかである。ボルトンの回顧録はこれに疑問符をもたらず。大統領選を左右しかねない本である。

したがってトランプ政権はこの本の出版前から激しい攻撃をかけた。トランプ政権は出版の差し止めを求めたが、6月20日連邦地裁はこの差し止めの訴えを棄却した。さらに、6月22日ポンペオ国防務長官は「ボルトン氏が公表した情報は、刑事責任に値するものだ」と

トランプ政権では国家安全保障問題担当大統領補佐官を務めたジョン・ボルトン氏。(19年4月、提供/AP・AFL)



述べている。

この本を読むにあたって、その特徴に言及しておきたい。ポンペオ国防務長官は「多くの嘘を広めている」としているが、ボルトンは名誉棄損で裁判に訴えられることを十分予測しており、嘘は極力避けたとみられる。

日本語版が出ていなかったの
で、今、私の手元にボルトンの回顧録英語版『THE ROOM WHERE IT HAPPENED』(それが起こった部屋)がある。

ボルトンは従来から頭の固いネオコン(新保守主義)の一味とみられているが、彼の観察は冷静である。将来にもわたって、トランプ政権についての一級の資料となるだろう。当然ながら、米国の安全保障を中心とした外交関係に触れるのでロシア関連もあれば、中国関連もあるし、イランがありアフガニスタンがあるという具合に

世界中をカバーしている。

米国の駐留基地
海外の駐留基地

この本を読んでつくづく考えさせられるのは、トランプ政権とは何かである。トランプのキャッチフレーズは「MAKE AMERICA GREAT AGAIN」と「AMERICA FIRST」である。それが経済的に意味するところは明確である。外国製品の輸入を制限し、自国内の工場を復活させる。そのことは「グローバリズム」提唱者と対立する。金融機関やグローバル企業は利益を最大限にすればいい。米国内の工場が稼働することや、米労働者が豊かになるか否かはさして重要ではない。

この「グローバリズム」を担保する手段として、米軍の軍事力がある。この構図を説明したのがアントニオ・ネグリー、マイケル・ハ